

平成29年度4月に生出中学校に校長として赴任して参りました。八島浩子です。校長室から見た学校、生徒の様子等について発信して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

4月10日（月）の始業式にこんな話をしました。



今日から29年度がスタートします。新しい2年生、3年生のみなさん、今朝は、新たな気持ちで登校して、それぞれに、目標をもって教室に臨んだことと思います。そこで、今日は二つのことをお話しします。

まず一つ目は、「察する」ということを大切にしてほしいということです。

「察する」という言葉の意味は分かりますか？このように書きますね。大きく二つの意味があります。

一つ目は、他人の気持ちなどを推し量る。特に、思いやる、同情する、という意味があるのです。

二つ目は、状況や雰囲気から、事情を知るという意味です。「危険を察して、現場を去る」というふうに使いますね。

こんな話があります。ある子が小学校5年生の時のことです。音楽の時間に笛を入れる袋をお母さんに作ってもらうようにと言われました。ですが、その子のお母さんは4年生の時になくなり、お父さんも当時62歳で、ミシンなど使えませんでした。次の音楽の時間まで、袋はできず、その子は暗い気持ちで学校に行きました。すると、親友が「これ、使って」と赤地に白い水玉の袋を手渡してくれました。その子は、その親友に何一ついわなかったのに、親友のお母さんが「きっと困っているだろう」とその子のために作ってくれたのです。その子はとてもうれしくて、「ありがとう」と何度も言い、その袋は今でも大切にしているという話です。まさに、相手のことを「察した」行為です。このように、「今、友達はどんな気持ちでいるのだろうか」「今お母さんはどんな気持ちでいるのだろうか」「なぜ先生はあのように入ったのだろうか」ということを考えてほしいということです。「察する心」があれば、友達関係も良くなり、いろいろな人から多くのことを学ぶことができるようになり、学力を上げるためにも大切です。

今年のキーワードとして、「察する」心を大切にしていけることを願っています。

二つ目は、「気付き」「発見」を大切にしてほしいということです。毎日の授業や学校生活の中で、「気付いたこと」や「発見したこと」を、自分の言葉で伝えてほしいということです。校舎内外で「あれ、あそこはちょっと変だな」と思ったら、先生にいつてほしいということです。すると、けがを防いだり、大きな事故を起こしたりせずすむこともあります。

また、些細な気付きが、小さな発見が、学びを面白いものにしていきます。「そうだったのか」や「すごいな」「これとこれは、ここが違うんだ」という気付きや発見は、答えを出すことよりも重要なのです。「気付き」と「発見」が、意欲を高め、皆さんを成長させてくれます。

みなさんの「気付き」や「発見」が、自分を変えていきます。一人一人が変われば、学校全体が変わっていきます。新しいものをつくり出す、素晴らしい学校になります。みなさんの「気付き」「発見」に期待します。私たち教職員も、そんなみなさんと共に成長したいと思っています。

3年生のみなさん、最上級生です。みなさんは生出中の顔として、大いに活躍してください。いい意味のイケメンになってください。2年生のみなさんは、中堅学年として、生出中の背骨として、学校全体を支えてほしいと思います。明日入学する1年生には、生出中の足として一生懸命に稼いでほしいと願っています。

